

「長崎市中央部・臨海地域」都市再生委員会（第4回）議事概要

1. 日 時：平成21年11月16日（月）10：15～12：00
2. 場 所：長崎県庁第一別館5階第3会議室
3. 出席者：都市再生委員会委員 9名（脇田安大委員長、有馬一郎委員、川添一巳委員、林一馬委員、平野啓子委員、梁瀬正輝委員、山口純哉委員、米倉邦彦委員、渡邊貴史委員）
（欠席2名：伊藤 滋委員、外井哲志委員）

都市再生委員会事務局

長崎県 副知事（藤井 健）、知事公室参事監（加藤 永）、
まちづくり推進室長（山口洋三）、まちづくり推進室（浦瀬俊郎、添川信一）
長崎市 副市長（椎木恭二）、都市計画部長（馬場敏明）、
都市計画部次長（池田 宏）、まちづくり推進室長（佐藤順次郎）、
まちづくり推進室（田畑徳明、飯田恭祥、濱崎一弘）

4. 内 容：

（委員長）

- ・ 今日の基本計画案のたたき台の最終版、これを基に議会、パブコメに諮りたい。
- ・ 第3回目の意見等、資料の説明を事務局から。

（県事務局）

- ・ 資料1、2、3、4の説明。→省略

（委員長）

- ・ この計画の名称であるが、前回「国際平和・文化交流拠点都市 長崎の再生」だったが、今回「平和と文化の国際交流拠点都市 長崎の再生」と改められている。これについてご意見を伺いたい。

（委 員）

- ・ 良いと思う。

（委員長）

- ・ 「拠点」を残すか外すか、そのあたりご意見あるか。
- ・ なければ、これで市民・県民の声を聞いてみることでよいか。
- ・ タイトル問題はこれで決着とする。

（委員長）

- ・ 個々の件について意見はあるか。

（委 員）

- ・ 基本的な役割（資料3、P.26）について、「大学の役割」にコンベンション機能があるが、「県・市」あるいは「県民・市民等」のどちらかに入るのはではないか。
- ・ 観光動向について、近年、台湾、韓国からの宿泊者数は増加している。台湾、韓国についてのコメントないが、ターゲットは中国人なのか。
- ・ 国際ゲートウェイ機能として上海航路や大連からの航路に全く触れていないので、もっと表現してほしい。
- ・ 現在、中国人がどういうルートで長崎を訪れているのかについても入れてほしい。

（委 員）

- ・ 関連して、「中国人を中心とする外国人観光客」と「東アジアを中心とする外国人観光客」がところどころ出てきて、入り乱れている。東アジアを中心とするに統一し、中国人について書くのなら個別の項目を作ればいいのでは。

（委 員）

- ・ 骨格は固まってきたかなと思う。あとは皆さんが分かりやすい形にしていく必要がある。特に用語的な部分で、整備目標を3つ掲げているが、同じ言葉を使いすぎだ。
- ・ 目標Ⅰ都市の魅力の強化ではなく都市魅力の強化あるいは増強なのでは。全部が機能ばかりである。
- ・ 目標Ⅱは回遊機能の強化ではなく、回遊性能の充実では。回遊性はすでにある。

（委 員）

- ・ 回遊性のほうが一般的である。

(委員)

- ・ 目標Ⅲは国際ゲートウェイ機能の強化だが、残念ながらゲートウェイはほとんど機能していない。かつて上海航路等があったことに触れ、国際ゲートウェイ機能の再形成や再生などにしたほうが、皆さんにも昔は国際貿易・国際交流の拠点だったと再認識いただけるのでは。
- ・ 整備方針①で平和を掲げているが、何かもう一点くらいほしい。オリンピック招致などあるが、ここが崩れると他にない。戦後60数年経って、いまさら被爆関連では新しい発見はなく、厳しいのでは。何か県市一体となって平和に向けた新しい動きがほしい。オリンピックは実現性の問題はあるが、それに変わる世界の方々が平和に関して集う提示がなにかできれば。例えば、若者の集いとして、ユニバーシアードというのがあるが、それであれば長崎でも十分対応できるのではないか。

(委員)

- ・ 施策一覧表(資料4の参考資料)で既に実施している施策については、直ぐにでも実施できる、または何年後、数十年後など年代ごとに時系列で出せば分かりやすいのでは。
- ・ さるくまの機能充実で、当時の幕末の長崎と現在の長崎では、出島とか埋め立てられていて全然違う。幕末当時の長崎の地理をイメージできない。そのあたりがイメージできるようなものがあれば集客につながるのでは。
- ・ 平和に関することで、青年会議所で10月後半に小中学生を対象とした平和授業をしている。各小学校、中学校、大学で平和関連の学習をやっているところを一同に介して紹介する授業を行っている。私たち大人が考えるよりも、今の小中学校の平和授業は非常に進んでいる。そういったところを紹介できるような事業があれば、平和に厚みがでてくるのでは。

(委員)

- ・ 市民のホスピタリティを活かした観光再生のところで、もてなしの心やホスピタリティが重要とあるが、整備方針の中でごみのポイ捨て云々というところから交流客のおもてなしにということにつながっていくところで留めてある。県民・市民あげてのおもてなしというのがこういったところに集約されたと感じているがいいのか？
- ・ 整備方針②に県産品を中心とした食を磨くとあるが、当然県民市民に浸透を図り食の提供を図る。県民市民に食の浸透を図ってから提供するとしたほうがいいのか？
- ・ 整備方針④に中国人をはじめ外国人観光客のニーズを踏まえながら、インセンティブなどのMICEについて推進するとある。確かにMICEの定義も書いてあり、中国人、外国人観光客のニーズを踏まえながらとあるが、国内も含んでいると思う。MICEという概念は長崎に必要だと思うし、コンベンション誘致にもこういったものを再評価する必要があるのも分かるが、並びが若干気になる。
- ・ 整備方針⑧に長崎をクルーズの起点港としたフライ&クルーズ・レール&クルーズのツアー企画等のソフト施策により、とあるが意味がよく分からない。その辺を教えてください。

(委員)

- ・ 3点ほど、他の地域でもつくられているが、地域区分を外したことにより他の地域と差別化できたと思う。
- ・ 面でなく、道に着目してつくられている。歴史の道整備などは素晴らしいことだと思うが、道だと道路に着目はしているが沿道景観がこの言葉からだとは全面ででない。地域の特性を活かした沿道景観の形成を盛り込むのはいかかか？
- ・ 整備方針全般に基盤に関する整備方針が多い。前の事前ヒアリングで申し上げたが、人材育成とか地域の価値とかの普及とかソフト施策を入れたらどうか。地域のまちづくりとかに出ているような気がするがもう少し前面に出していただいた方がよいのかなど。
- ・ 整備方針には交流人口の拡大はあるが定住人口はあまり考えないのか。まちなか居住推進というところに含まれているとは思いますが。
- ・ 最後に一般市民が見る分かりやすさが必要。図に色が多い。盛り込みすぎなので取舍選択が必要では。
- ・ 環境に配慮した都市・交通機能の強化について、「市街化区域の緑化」については、「市街地内の緑化」を推進するとした方が法制上の区別がしやすい。

(委員)

- ・ 平和と文化の国際交流拠点都市長崎の再生というキャッチに矛盾するかもしれないが、今日の資料を拝見して資料3、P.17のところに、平和都市の魅力を磨き、世界に平和を発信するというのがあり、そして整備方針②で世界遺産候補など、多様な歴史・文化等の資源の魅力を磨くと並んでいる。ところがP.16の都市再生の目標は交流人口の拡大であり、その結果として経済効果を地域にもたらそうというのがあるがP.17、P.18

に戻った時に整備方針②はなんとなく観光客が増えて、それなりに地域にお金落ちると結びつくのだが、整備方針①の平和は確かに長崎特有、固有のものと思うが、外出して経済効果に結び付けるといふときに何をやるんだというパンチが弱い。

- ・ 平和を経済効果に結び付ける場合に何をやるんだという議論をせずに外出するのは違和感がある。
- ・ 平和の問題を整備方針の先頭に掲げるのは大きな覚悟が必要。オリンピックはイベントの話なのでできるかできないかはどちらでもよいと思うが、長崎は民間の平和団体が沢山あるのでその方達と方針を議論してからでないかと都市再生の中で大きく平和を扱うのは難しいのではないかと。
- ・ 外に出した場合に大きなことができないのであれば外に出しても寂しいので、よほどのことを考えないと駄目であろう。

(委員)

- ・ 平和に覚悟が必要なのは前回は議論したが、これだけ文章には記載されたので、期待したいところである。
- ・ 原爆は政治的に公教育の場では課題があった。その辺をどのように制御してやっていくか市民、県民は注目していると思う。
- ・ オリンピックは4年後で結論がでることなのでこのような文言でなく、同じ被爆都市としての広島と連携する様々な事業や平和の発信場面での連携などとして、例えばオリンピックの開催等、とした方がいい気がした。
- ・ 新幹線について、概要版(資料2)の国際ゲートウェイのところだが、新幹線だけ書いてある。今回書くのであれば東アジアから新幹線でなくて長崎から新幹線を通じて国内だと思ふので航路も入れるべき。
- ・ 周辺観光地との連携図(資料3P27)について、それぞれの矢印のところを高規格道路とか新幹線という言葉になっている。それも必要だが、それと同じように並列して人材交流とかソフト事業も同じように矢印に入れてほしい。

(委員)

- ・ 具体的な話をさせていただく。ある長崎出身の社長の話だが、長崎の工場を持ち、今は中国にも工場を持っておられるが、大阪から40年間単身赴任をしておられる。何故かと聞くと、奥様と娘さんが「長崎には魅力がない、ウィンドウショッピングする場所がどこにもない」と言われるからとのこと。
- ・ 商店街の話であり、我々に何が出来るわけではないが、都会から長崎を見るとそうなのかもしれない。私は長崎の街が大好きだが、まちづくりの中に取り入れてもらいたい。
- ・ 長崎県も中国人の観光に力を入れている。その証拠に先日ゴルフ場に行ったら、中国人が20~30人プレーしていた。中国観光客は昔は秋葉原で家電などを買われていたが、最近は台湾でマンションを買っている。年収3000万円以上の方々が6000万人いるとのこと。台湾では1億円を超えるマンションが即日完売とのこと。
- ・ まちづくりの中で中国、特に上海との結びつきに力を入れてもらいたい。

(委員)

- ・ 都市再生のイメージ図(P16)について、平和をお金に換えると表現するのは少しどぎついのは。経済効果は大前提なので、ここには経済効果を書き込まなくても良いのではと思う。
- ・ 平和をテーマにした国際会議、イベント、あるいは音楽祭などは十分取り入れる余地があると思う。
- ・ 産業としての観光再生(資料3のP10)に「大型コンベンション施設の不足が課題」と書いてあるが、それに対応する言葉が書かれていない。
- ・ 整備方針④(資料3P20)の都市機能の強化にコールセンターのことが記載されてあるが、これは課題に上がっていない。コールセンターのことは企業誘致一般のことではないか。書くのであれば、それなりの理由を書かないといけぬのでは。
- ・ 文化について記載されているが、かつての長崎の歴史・文化にとどまっている感じがする。もう少し発展させるとか、唐人屋敷の顕在化の話が出てくるが、建物、いわゆる箱ものだけにとどまるような感じを受ける。三重県の「おかげ横丁」などは、ハード整備と言うより江戸時代の生活を実感できる施設であり、また箱ものを造るのかと言われぬようにしなくてははいけない。
- ・ 最後は言葉の問題。「長崎駅」と「新幹線長崎駅」という2つの言葉が混在している。異なる駅があるのかとの誤解を受けてしまう。新幹線の名称は最低限にとどめた方がよい。

(委員長)

- ・ これまでの発言、質問に対して事務局から何か意見があったらどうぞ。

(市事務局)

- ・ 色々なご指摘、ご意見等を賜りありがとうございます。
- ・ 内容については、今のご意見を踏まえて、今後、議会や市民・県民の意見を聞くために、事務局の方で再整理することになる。
- ・ 私からは平和の問題について述べる。景観などの検討では平和の視点もあったが、平和の話を都市づくりの計画書の入れるのは初めての試みである。
- ・ 「平和を入れるのは覚悟がある」とのご指摘はまさしくその通りと考える。今まさに 64 年が経ち、被爆という歴史から出発した平和の発信の問題について、長崎はこれからどうやっていけば良いのかは非常に大きな課題であるので、色々な形でここに出すことにより、市民・県民の皆さんにも考えていただき、意見をもらう。行政側としてはある意味、刺激を受けたいと考える。
- ・ これは基本計画の案だが、これを具体的に進める、実施に移っていく段階では、関係の団体の方々や、民間の方々とは具体的に協議したい。今の段階では、一つ思い切って前に出してみても、それに対して意見をいただいたり、知恵をいただいたり、あるいは叱咤をいただいたりして、行政として刺激を受けて進んでいった方が良いのではと考える。
- ・ 表現とか実際に何をやるのか等については事務局の方でもう少し練った形で出したいと思うが、基本的なところは理解していただきたい。
- ・ オリンピックの件については、今年の計画の中でオリンピックの招致の検討と入れているが、実際に来年 4 月の段階でどうなっているかわからない。検討したが駄目だったということもあるし、あるいは頑張ろうとのことで手を挙げていることも考えられ、言葉は必ず変わることになる。検討としか書いていない。
- ・ 先ほど委員から「広島と連携した平和の発信の中の一つの方法としてオリンピックがある」との整理が良いとのご意見があり、なるほどと思うので、言葉の整理をしたい。

(県事務局)

- ・ 一つ一つごもっともな非常に良いご意見をいただいております、かなり書き込まねばならないとの感想を持った。
- ・ 次回の委員会は来年 2 月なので、我々県・市の事務局で相当の書き込みをして、それを各委員の方々に見ていただき、良いものにしていきたいと思う。
- ・ 幾つかあるが、先ずは上海航路の件。最初はその線でこの地域の再生を考えスタートしたのだが、やっているうちに段々その辺の話しがグジャグシャになり消えていた。第 1 回目の国勢調査の時に長崎市の人口は全国で 7 位であった。その時は福岡や札幌や仙台より輝いており、その時代は間違いなく長崎は大陸のゲートウェイであった。
- ・ 上海航路はなくなり、今すぐ復活できないが、資料 3 の P5 のように外国客船の入港が増えており、もっと増えると考えている。
- ・ 資料 3 の P24 にフライ&クルーズを書いている。言葉がたりないが、上海航路の復活をイメージしている。長崎を起点港として上海等に出発する。来年上海万博があるのでたくさん船が入る。フライ&クルーズ今 300 人位あるがもっと増やしてくださいと働きをしている。実現するには C I Q をきちっと造らないといけないということで松が枝のターミナルビルも造らないといけない。そこが新幹線とつながる。ついでに長崎も見てもらう。言葉の中に上海航路の復活もいなければならないと感じた。
- ・ 中国のお金もちの方は外貨に換金できない円のままっており、4、5 千万のマンションはキャッシュで買いますよという方が沢山おられる。そういう方々と交流といったときに、長崎だったら国際二地域居住があるんじゃないか。それを実現させるために、その人たちだけがビザなしにやれないかと国土交通省と検討してきた。しかし、ビザの問題が解けたので、いつの間にか議論が消えていた。
- ・ ホスピタリティ、人材育成の問題は非常に大事な問題だと認識している。いつの間にか消えてしまったが、長崎歴史文化観光検定など人材育成は他のどの地域よりも相当やっている。
- ・ 周辺観光地との連携のところで、国土交通省的なものということでハード的だという話があったが、観光政策はソフトが大事だということで入れていったが、その内、作成中の中でだんだん消えてきた。今日もう一度こういうところを入れて行かなければならないと思った。
- ・ 経済効果についても言われる通りで、そういう思いでやっていたつもりはない。我々が目指す観光はツーリズムでなく、感動を長崎にきてもらって体験するのが一番の目的で、その結果経済的につながってくる。5 年 10 年で終わるのでなく未来永劫続いて持続的に進めるようなものにしなければいけないという思いだった。経済効果は持続可能な未来に向かっていけるようなものを目指していくという気持ちはあったが、経済効果だけが残ってしまった。

(委員)

- ・ 地域の活力の再生という言葉がいい。

(県事務局)

- ・ 平和はいろいろ県、市で何かできないか議論している。行政機関であるため責任もたないといけないのでいい加減なものは書けないので書いていないが、やるからには相応のものをやらなければという気持ちはあり、内々にやっている。もっといろいろ投げて、意見をいただき、色々なことをもっとやるべきだと叱責をいただく中で、計画をやっていきたいと思っている。いずれにしても今日頂いた意見の中で整理したい。

(委員)

- ・ 施策について、急ぐものとゆっくりするものを考えてほしい。

(委員長)

- ・ 基本計画は書きこむと長くなるので、市民が分かるコンパクトなもの、市民が5分から10分で読めるダイジェスト版みたいなものを作ってほしい。

(県事務局)

- ・ 以上で終了させていただく。